



『 新 年 の ご 挨拶 』

福島労災病院 病院長 大和田 憲司



新年明けましておめでとうございます。皆さんにはお健やかに新年を迎えられたことと思います。

東日本大震災そして福島第一原発事故が発生して一千日が過ぎました。街中は少しずつ復興しているようですが、海岸沿いは復旧が遅々として進まず、被災者の方々も仮設住宅暮らしが続いております。市内の空間放射線量は年間 1.0 mSv (1 時間当たり 0.23 μ Sv) を下回っていて、放射線被ばくを心配する状況にはないのですが、まだ風評被害が続いているのは困ったものです。

いわき市の医療は厳しい状況にありますが、当病院は中核病院の一つとして最善の医療を提供するよう努めています。医師や看護師が不足しているなか「地域がん診療連携拠点病院」「地域医療支援病院」「救急告示病院」として地域医療に貢献すべく、病院一体となって頑張っています。医院やクリニックの先生方には当病院への患者紹介はもとより、高度機器も大いに利用させていただきたいと思っております。また県内でも数少ない「緩和ケア病棟」もありますのでご利用ください。

皆さんには医師不足のため一部ご不便をかけておりますが、1 月に腫瘍内科、4 月に泌尿器科の医師が着任します。消化器病センター（消化器科・消化器外科）、運動器疾患センター（整形外科・リハビリテーション科）、呼吸器疾患センター（呼吸器科・呼吸器外科）、循環器科なども引き続き地域に根ざした診療を続けてまいります。

明るい話題としては当病院の増改築があります。来年 4 月の工事開始に向けて順次計画を進めており、全ての職員が希望を胸に診療に当たっていただけるものと期待しております。

今年も当院の理念である「受ける人が主役の医療の実践」を推し進め、皆さんに信頼される病院をめざして、安全で安心の医療を提供できるよう職員一同努力していく所存です。皆さんの変わらぬご支援とご協力をお願いし、年頭の挨拶といたします。

～ 目 次 ～

- | | | | |
|------------------------|---------|------------------------|-------|
| ■ 新年のご挨拶（大和田病院長） | … P 1 | ■ 新年のご挨拶（江尻副院長・杉山看護部長） | … P 2 |
| ■ 看護部紹介 6 階東病棟 | … P 3 | ■ 感染対策に対する取り組み | … P 4 |
| ■ 疾病と食事～かぜ～ | … P 5 | ■ 甲状腺二次検査の実施について | … P 6 |
| ■ 除染などの作業に当たる事業主のみなさまへ | … P 7～8 | | |



『午年を迎えて』

福島労災病院 副院長 江尻 豊

新年あけましておめでとうございます。

今年は、午年です。馬と人間は歴史的にも付き合いが長く、それにまつわる多くのことわざや格言が説かれています。『馬が合う』とは良く耳にしますが、これは馬と乗り手の呼吸がぴったり合っていることから、良好な人間関係の代名詞になっています。しかし『馬が合う』か否かは直ぐに判断できないことも多いものです。『馬には乗ってみよ、人には添うてみよ』と言う格言もあります。これは馬には乗ってみなければ善し悪しがわからないし、人とは付き合ってみなければその人の性格はわからないという喩えです。すなわち何事も経験することによって、そのものの良さが初めてわかるのだから、始める前から軽々しく物事を批判するのは良くないと説いています。まずは乗ってみて、「一緒に頑張りたい」、「やりがいがあるかも」と思うことがあれば、『馬が合う』ための努力を積み重ねていくことが大切であり、それにより良好な関係や業績が築かれて行く中に真の幸せがあるとも説いています。

患者様、病診連携の先生方そして職員にとっても『馬が合う』病院を目指して、地道に仕事を続けて参りたいと思っております。皆様にとって幸多い一年になりますようご祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。本年も何卒宜しくお願いいたします。

『安全で安心できる看護の提供』

福島労災病院 看護部長 杉山 好美



皆さま、あけましておめでとうございます。

東日本大震災から2年9ヶ月が経過しましたが、復興が進まず不自由な生活をされている方々が多くおられます。今年は想定外という言葉を使わなくてよいように万全の体制で向っていただきたいと祈ります。

今年は電子カルテの更新に向けて本格的な準備が始まります。私の目標は、看護師一人ひとりが看護することが楽しくなるようなシステムが構築されること、理想と現状のギャップを少しずつ埋めて行かなくては実現しません。この更新をより質の高い看護の提供と業務改善の機会到来と考え、現在の問題を一掃できるよう周到な準備を看護部全体で取り組んでいきたいと思っております。

ここで看護部の理念を紹介いたします。「地域の人々に信頼される安全で安心できる看護を提供します」この理念をものさしにして私達は日々看護を提供しています。行った看護が、信頼に足るものであったか、安全であったか、安心できる行動であったかを自分自身に問いかける毎日でありたいと願っています。そしてスタッフ一人ひとりが誇りを持って看護ができる環境を整えるのが私の仕事だと認識し努力しています。

今年も、看護の心を大切に、病院に来院する全ての人々に良い接遇を心掛け心地よい時間を過ごしていただけるよう看護部一同務めてまいります。これからもよろしくお願いいたします。

看護部紹介

6階東病棟



明けましておめでとうございます。6階東病棟です！

私たちの病棟には、消化器・呼吸器の手術を受ける方、手術前後に化学療法や放射線治療を受ける方が多く入院していらっしゃいます。総勢31名の看護スタッフで心温まる看護が提供できるよう、日々苦戦しながらも前向きに前進するチームワークの良い病棟です。

消化器外科では、食道や肝臓、膵臓などの大手術を初め、胃や腸、胆嚢疾患の手術も多く実施されています。現在は術後の回復が早い腹腔鏡下手術も盛んに行われています。呼吸器外科の手術は、いわき市内では当院のみでしか実施できないこともあり、肺がんや気胸疾患の患者さんはスタッフ全員使命感を持って受け入れしています。週に10件を超える手術に処置介助、病室の算段、退院の準備、手術後の観察など、毎日山のような仕事にバタバタガヤガヤしていますが、その中でも人工肛門や褥瘡ケア、緩和ケアのスペシャリストを目指して積極的に学び、活動している看護師もいます。また、若い看護師を中心に外科医師との学習会を開催し、疾患の理解を深めたり、治療方針を確認したりして日頃の疑問を解消し、患者様の回復に役立てるよう知識や技術の向上にも努めています。これからも、入院される患者様とご家族皆様の笑顔が増えていくことを目指して、明るく元気に、皆で力を合わせて奮闘してまいります。そして、地域の皆様に愛され、「労災病院で診てもらい、手術してよかった」と言ってもらえるよう、満足のいく看護の提供ができるよう頑張ります。



～感染対策に関する取り組み～

平成 25 年 12 月 4 日

いわき市立総合磐城共立病院の

ICT (感染対策チーム)

が来院しました！！



平成 24 年 4 月の診療報酬改定により、「感染症対策の地域連携の推進」として、院内感染対策についての医療機関同士の連携や相互の評価を年一回行うことになっています。これまで、それぞれの医療機関で行われていた感染対策を、地域の医療機関同士で評価し合うことにより、現状を客観的に把握するとともに、より感染対策を強化することが期待されています。ちなみに平成 26 年 1 月 23 日には、当院の ICT (感染対策チーム) *がいわき市立総合磐城共立病院へ伺って評価 (ラウンド) をする予定となっています。

※ICT (Infection Control Team)

感染対策チームとは、院内の感染対策全般にわたり、感染症の治療から耐性菌対策まで現場で活動しているチームです。ICT は院内を横断的に活動する感染症に関わるすべてを担う、医師・検査技師・薬剤師・看護師で構成されたエキスパート集団です。



当院でのラウンドでは設備や環境、医療廃棄物の分別、手指衛生、物品管理と、様々な感染に係る 150 項目について評価を受けました。それぞれ病院の特徴や設備面での違いはありますが、いわき市立総合磐城共立病院の ICT (感染対策チーム) から評価を受けることにより、自施設では気づかなかった現状を客観的に把握することができ、課題が明らかになりました。さらに、感染防止対策に関する職員の意識が高まったと思われます。感染対策において日常的な地域連携を行うことにより、相談しやすい関係を構築していきたいと考えています。

病院では病気にかかり、体が弱った方が大勢同じ場所で生活しています。また、もちろん感染症にかかった方もおられます。治療のため管が挿入された方、点滴のチューブをずっと刺していなければならない方、食事の制限やトイレの制限がある方など、非日常的な生活を送っておられます。このようなことは全て「医療関連感染」が起きやすい状況となります。このため、当院では、病院に治療に来られた患者様が安心して病気の治療に専念できるように、「ICT (感染対策チーム)」をはじめ全職員が力をあわせて感染対策に取り組んでいます。

私たちは、相互の感染対策の評価や情報交換を行うことで、いわき地区全体の感染対策のレベルが向上することを期待しています。今後も、いわき市立総合磐城共立病院をはじめ地域の医療機関と連携して、より質の高い感染対策を行っていききたいと考えています。



疾病と食事 ～かぜ～



暑さや寒さなどの温度変化、寝不足や栄養の偏りなどで抵抗力が低下すると、かぜをひきやすくなります。かぜをひいた時は水分をしっかりととり、栄養があって消化のよいものを選んで食べましょう。

* 具体的なポイント *

● 水分を確保します

熱が出て汗をかいたり、嘔吐や下痢があるとからだから水分が失われます。薄めの麦茶やほうじ茶、スープなどで水分をこまめに補給しましょう。特に嘔吐や下痢があるときには、スポーツドリンクのようなイオン飲料で補給してもよいでしょう。

● エネルギーを補給します

熱があるときには食欲が低下し、十分に食べることができないうえ、発熱でエネルギーを消耗します。そのため、効率よくエネルギーを補うことが大切です。やわらかく炊いたご飯に梅干など、さっぱりしたものや、のどごしのよいものを少しずつ食べましょう。

● 栄養素の不足に注意します

からだの回復のためにも、たんぱく質・ミネラル・ビタミン類は大切です。症状が少し治まってきたら、ジュースやくず湯から、お粥・スープ・ポタージュ・シチューなど、だんだん固形のものに近づけていきましょう。自分で用意するのが大変な時は、市販のお粥やご飯、レトルトや缶のスープを利用しましょう。

* 症状別対策のポイント *



● ひき始め

温かいものを食べ、早めに寝るようにしましょう。暑い時でもからだを冷やさないほうがよいでしょう。

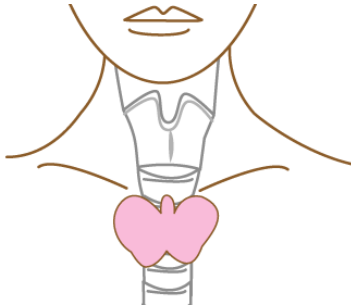
● 熱がある

食欲がない場合には、食べられそうなものを少しずつとりましょう。水・お茶などで水分補給をし、食欲が出てきたらジュースやスープで水分の補給をしながら、卵豆腐やプリン・アイスクリームなどでエネルギーの補給をしましょう。

● 咳が出る

のどごしがよく、とろりとした食感のものを食べましょう。ゼリー・ポタージュ・スープ・茶碗蒸しなどがおすすめです。

福島県「県民健康管理調査」 甲状腺二次検査の実施について



～県内検査拠点としての

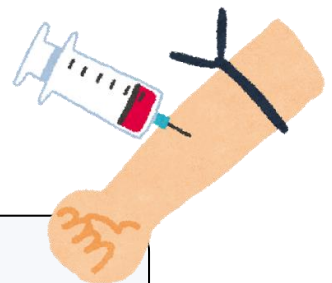
当院の活動について～

福島県及び福島県立医科大学では、東日本大震災に伴う東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による県内の放射能汚染を踏まえ、全県民を対象とする「県民健康管理調査」を行っており、その調査において、子どもたちの健康管理を行うため、現時点での甲状腺の状況を把握するとともに、生涯にわたる健康を見守り、本人や保護者の方に安心していただくため、甲状腺検査を実施しています。

福島医大において実施した甲状腺検査（一次検査）の結果により、必要に応じて二次検査を受けていただくことがあります。当院は福島医大との協定により、甲状腺二次検査の実施に関する県内最初の検査拠点医療機関となっています（今後、県が中心となり県内検査拠点の整備を進めていく予定）。

二次検査の対象となる方には、福島医大より「甲状腺検査（二次検査）の実施について（お知らせ）」が届きますので、検査日時をご確認の上、当院までお越しく下さい。

- ① 検査対象者 甲状腺一次検査を受けた方で、福島医大より二次検査実施のお知らせがあった方
- ② 検査実施日 毎週金曜日 14：00 ～ 17：00
※ 福島医大が指定する日（上記お知らせに記載）となります。
- ③ 検査場所 福島労災病院 外科外来（1階）
- ④ 検査内容 甲状腺超音波検査、血液検査、尿検査、
穿刺吸引細胞診（必要な場合のみ）



※ 県民健康管理調査「甲状腺検査」に関するお問い合わせ先
福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター
TEL：024（549）5130（9：00～17：00 土日祝日を除く）

『除染などの作業に当たる事業主のみなさまへ』

～内部被ばく線量測定の実施について～

当院では、東日本大震災により生じた放射性物質により汚染された土壌等を排除するための業務に従事されている方を対象とした内部被ばく線量測定を実施しています。

- ① 測定場所 福島労災病院 内部被ばく線量測定室
- ② 測定日時 毎週 火 木 金 10:00 ～ 16:00
- ③ 測定方法 ホールボディカウンタ（WBC）による測定
- ④ 対象者 除染等業務従事者
- ⑤ 予約方法 お申し込みは事業所にて取りまとめの上、申込書（本誌最終頁）にご記入いただき、FAXにてお申し込みください。申込書は当院ホームページからもダウンロードできます。日程調整の上、測定日をご連絡いたします。
- ⑥ 測定料 5,250円（税込）
- ⑦ 支払方法 事業所から月単位でお振込をお願いします。
（振込先：東北労災病院勤労者予防医療センター）



- ◆ 内部被ばくとは、吸い込む、飲み込むなどして体内に入った放射性物質から、放射線を受けて被ばくします。口や鼻が放射性物質に汚染されている場合には、内部被ばくしている可能性があります。
- ◆ セシウムが多く含まれている土壌などを扱い、かつ粉じんが大量に発生する作業では、内部被ばくのおそれがあるため、ホールボディカウンタ（WBC）などで3カ月に1回の頻度で測定を行う必要があります。

※ 当院で行っている内部被ばく検査は、汚染された土壌等の排除業務に従事した労働者の方を対象としたものです。一般の市民の方々向けの内部被ばく検査につきましては、市保健所放射線健康管理センター（TEL:0246-27-8560）へお問い合わせください。

内部被ばく線量測定申込書

FAX 0246 (26) 1322

(福島労災病院総務課)

事業所名	
御担当者名	(所属部署)
所在地	〒 TEL: _____ FAX: _____ E-mail: _____
測定希望者数 <small>(日程を調整してご連絡致します。)</small>	_____ 名
測定に係る 注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・測定前日には体を洗い、洗髪をしてください。 ・来院時には除染作業を行っていない服装、靴を着用してください。
御要望等	

* アンケートにご協力お願い致します。* 当てはまるものに☑をしてください。

当院の 内部被ばく線量測定 の情報をどこで得られましたか？

<input type="checkbox"/> 当院HPを見た	<input type="checkbox"/> リーフレットを見た(福島労働局・福島産業保健推進センター
<input type="checkbox"/> 知人から聞いた	<input type="checkbox"/> その他()

独立行政法人 労働者健康福祉機構
福島労災病院

〒973-8403
福島県いわき市内郷綴町沼尻3番地
TEL: 0246-26-1111
(内線 4315)

E-mail: wbc@fukushima-rosai.jp